



# 「いのち」について考える

公開シンポジウム

## Art&Culture

第3回

### 文化・芸術の視点から

#### 1 基調講演

いのちを唄い、歌でいのちを繋ぐ  
国境なき楽団の活動を通して

歌手・シンガーソングライター  
庄野 真代



1978年「飛んでイスタンブール」「モンテカルロで乾杯」などが大ヒット。その後28か国132都市をめぐる世界旅行に。現在は歌手活動と共にNPO法人国境なき楽団を運営。国内外で音楽を通じた支援活動・フィランソロピーを継続して行っている。  
近年AOR(大人向けのロック)としての再評価の高まりを受けて、各地での演奏活動も多い。2015年春まで全国ライブツアーを敢行中。  
代表曲 飛んでイスタンブール / モンテカルロで乾杯 / アデュー / HeyLady/優しくなれるかい

#### 2 幕間余興

新作落語 「渡邊海旭先生と  
芝中学と遵法自治」 落語家 柳家さん福

1980(昭和55)年、柳家小さん入門。1982(昭和57)年、前座となる 前座名「小富」。1986(昭和61)年、二ツ目昇進「さん弥」と改名。1996(平成8)年03月、真打昇進「さん福」と改名。将棋はアマ四段で、歴代落語家でも最強と言われる。

#### 3 パネルディスカッション

テーマ  
「いのちを描き、  
詠み、書き記す」

##### パネリスト

作家、俳人、根岸西念寺住職  
佐山 哲郎  
(芝中高卒 61 回生)

1948年東京根岸生まれ。芝学園61回生。東京都立大学文学部中退後、エディターライターとして多くの書籍、雑誌、マンガ原作など、執筆、編集に携わる。2011年スタジオジブリ作品「コクリコ坂から」の1980年版オリジナル(『なかよし』連載)作画・高橋千鶴)原作。現在、東京根岸西念寺住職。著書に『童謡・唱歌がなくなる日ー日本の叙情歌に秘められた意外な真実』(主婦の友新書)。句集に『したん』、『東京ばれおるがす』、『娑婆娑婆』。句誌「月天」同人代表。「塵風」、「百句会」所属。

日本画家  
萩原 延元  
(芝中高卒 61 回生)

1947年東京渋谷生まれ。芝学園61回生。芝で故奥村昭先生の薫陶を受けて、武蔵野美術大学日本画科入学。卒業後に同大学助手。その後川村短期大学・川村学園女子大学にて美術教育全般を担当。現在、教育学部児童教育学科教授。師 奥村土牛主宰八幡会会員・日本美術院所属。日本感性教育学会常任理事、服飾文化学会理事、日本美術家連盟正会員。著書『郷愁の東京』東京建築遺産を描く』ほか。

##### コーディネーター

ノンフィクション作家、翻訳家  
前田 和男  
(芝中高卒 60 回生)

1947年東京生まれ。芝学園60回生。東京大学農学部卒。日本読書新聞編集部勤務を経て、ノンフィクション作家、翻訳家、編集者として活動。路上観察学会事務局。資生堂企業文化部「化粧品文化研究会」会員。著作:『MG5物語』(求龍堂)『足元の革命』(新潮新書)『選挙参謀』(太田出版)『男はなぜ化粧をしたがるのか』(集英社新書)ほか。訳書:『ヘルイマン』『ある結婚の風景』(ヘラルド出版)、O・ハラール『コロン・パウエル リーダーシップの法則』(KKベストセラー)、C・アンダーセン『愛しのキャロライン ケネディ 王朝復活へのオデッセイ』(ビジネス社)など多数。

日時

2015年 1/24(土)  
14時~16時 [開場13時]

会場

芝学園講堂

先着

1,200名

入場無料

予約不要

芝中学校第三代校長、渡邊海旭先生が、明治44年(1911年)9月、校長に就任されてから一世紀を経た今日まで、仏教精神である「共生(ともいき)」のこころと、先生が校訓として定められた「遵法自治(じゅんぽうじち)」の精神は芝教育の根本理念として脈々と受け継がれてきました。

生徒ひとり一人の個性を尊重し、周囲の人々によって生かされていることを認識する人間教育は芝学園の誇りでもあります。

このシンポジウムも3回目を迎えることになりました。第1回は仏教の視点から、第2回は医学の視点から、それぞれ「いのち」について考察してまいりました。

今回は、文化・芸術の視点から、考えてみようと思います。さまざまな芸術表現が、人間ひとり一人の感性の結晶であるとすれば、そこには、それぞれの生きている姿が表現されているともいえます。なぜ描くのか、どうして描こうとするのか、基調講演とパネルディスカッションを通してお考えいただければ、と存じます。

芝中学校 芝高等学校からの発信にご注目下さい。お越しいただくことを心よりお待ちしております。

## 渡邊海旭先生 略歴

- 1872(明治5年) 浅草田原町に生まれる。
- 1887(明治20年) 浄土宗学東京支校に入学する。
- 1898(明治31年) 西光寺住職となる。
- 1900(明治33年) 浄土宗第1期海外留学生として、ドイツ(現フランス)のストラスブルグ大学へ留学する。
- 1910(明治43年) 帰国する。
- 1911(明治44年) 9月、芝中学校第三代校長就任。のち逝去まで勤める。
- 1926(大正15年) 浄土宗の最高学位勲学に叙せられる。
- 1932(昭和7年) 仏教研究所所長就任。
- 1933(昭和8年) 1月26日逝去(61才)。

